

市政に対する一般質問

市政全般にわたり13人の議員が質問（紙面の都合により1人1点のみ要旨を掲載）

小学校プールを温水に

吉田議員（自民党明政会）

市長の政治姿勢について
市民休暇村と温水プールは、いずれも公的余暇施設の一環として国・地方公共団体で位置付けられております。先進市では余暇施設の基本方針を策定し、過去には余暇を暇としてとらえておりましたが、現在では労働時間の短縮、週休二日制の導入で余暇は積極的自由時間となりました。

できていません。前の市長は、「休暇村・温水プールの関係ですが、実現に努力いたしません」ということで清川自然の村はできました。それから二十数年、小学校プールを改造して鉄骨スレート葺きでボイラーを付ければ一年中遊泳ができ、泳力向上とシルバートの筋力トレーニングの場となるので、広く市民に開放していただきたい。

本市小・中学校では、バスで二時間かけて津久井方面の民間施設を利用しており、市としても建設を提唱しましたが、温水プールはいまでも

市長は、温水プールを一箇所設置すると過去に答弁しております。それはいつになるのか。簡易な小学校プールの改造で、市内の十一箇所を温

中澤議員（日本共産党）

基地対策について
在日米軍再編強化のねらいは、先制攻撃のできる米軍の最適配置と同盟国の役割の拡大、米軍と自衛隊の一体強化にあると言われている。キャンプ座間への移転が言われている米陸軍第一軍団は、司令部要員五百人、兵員四万人と言われ、太平洋からアフリカ東海岸までを管轄する戦略実践部隊である。その上、キャンプ座間の司令官は少将から大将に格上げされ在日米軍四軍を指揮することになると言われている。このことが基地の強化、恒久化につながることは明らかであり、座間市連絡協議会を通じて強く反対していくべきである。

米の国防長官が「歓迎されないところに米軍基地は配備しない」と言明しているのだから日米親善盆踊り大会は中止すべきである。そして、市民の理解と協力を得るために広報やホームページなどで市民への情報提供を積極的に

基地の強化に反対 —キャンプ座間—

また、地元選出の国会議員や県会議員に対し、連絡協議会顧問への就任を要請し、会の活動を効果的に進めたい。

市長 宜野湾市、名護市の両市長との会談は、基地に関する共通の認識と理解を深め全市、全県的な取り組みの必要性を受けとめました。日米親善盆踊り大会の実施については、今後の推移を見ながら判断します。市民への情報提供については、移転阻止のため市民の理解と協力が得られるよう適宜的確に行っていきます。顧問については連絡協議会の理事会で検討します。

市長は基地問題を抱える沖縄の宜野湾市、名護市の両市長と十一月に会談しているが、その内容と教訓は何か伺います。

協会の理事会で検討します。

水プールにする考えは持つていないのか伺います。

市長 温水プールの必要性については、これまでも是とする立場で答弁してきております。ただ多少相違していることは、温水プールを設置するならば、小学校プールではなく社会体育プールのな位置付けとして、市内に一箇所程度設置するという事です。現在のプールについては、老朽化等の問題もあるため、今後よく精査して全体的な考え方をまとめていくことが必要であると思っております。

菊川議員（日本共産党）

清掃行政について
第一は、ごみ収集車の過積載が座間市の場合、四月から十月までの七ヶ月間で全体の三五％です。燃えるごみの収集回数が週二回になったため

一回に出る量がふえ、そのことが収集作業を大変なものにしていないのか伺います。残業をしないで現在の人員、車両台数で生ごみ週二回収集体制ができるのか、現場に無理を強いているのではないのかお尋ねいたします。

ごみ問題について

第二は、生ごみ収集を週二回に減らしたことに伴って「元に戻してほしい」という市民の声が寄せられています。今回、八月の広報で知らせ、十月実施というの

困るとの声も多く、アンケートなどで市民の意見をよく聞くべきであり、夏場は三回にするなどの検討を求めます。第三に、ごみの減量化対策であるコンポストでできた堆肥の再利用システムをつくることについて求めます。

また、堆肥化された生ごみの処理については、一例として協議しているのは、公民館事業のふれあい農園での活用が可能なか検討しています。

災害対策の強化を急げ

上沢議員（公明党）

地域防災計画の見直しについて
高齢者、心身障害者、病弱者、乳幼児及び外国人など、災害弱者への災害情報の提供、避難、救出について本市の状況を伺います。

の安否の確認がとれないというような問題がたびたび指摘されていますが、本市では、把握された方々の安否をだれが確認し、だれが避難誘導するのか伺います。

また、新潟県中越地震では、通信規制がかかり、役場を含むほとんどの電話回線が不通となりました。こうしたことから、市民からの救出要請や安否を確認するための通信手段についての対応をどのようにされるのか伺います。

また、新潟県中越地震では、通信規制がかかり、役場を含むほとんどの電話回線が不通となりました。こうしたことから、市民からの救出要請や安否を確認するための通信手段についての対応をどのようにされるのか伺います。

市長 宜野湾市、名護市の両市長との会談は、基地に関する共通の認識と理解を深め全市、全県的な取り組みの必要性を受けとめました。日米親善盆踊り大会の実施については、今後の推移を見ながら判断します。市民への情報提供については、移転阻止のため市民の理解と協力が得られるよう適宜的確に行っていきます。顧問については連絡協議会の理事会で検討します。

市長は基地問題を抱える沖縄の宜野湾市、名護市の両市長と十一月に会談しているが、その内容と教訓は何か伺います。

協会の理事会で検討します。

四ツ谷踏切に専用通路を

稲垣議員（公明党）

市道二号線の整備について
市道二号線の距離は約一キロメートル位ですが、道路幅が非常に狭く、対面交差するの道路の端ギリギリにとまって交差している状態です。最近では、朝晩の混雑を避けるために県道からの進入車両が大変に多くなり、この狭い道路を車、自転車そして歩行者が慌ただしく動き回っている非常に危険な状態になっております。

今後、重大な事故が発生する前に地形の構造的な問題や予算の厳しい面もありますが、歩行者専用道路の新設、道路の拡幅、段差解消等、市民が安全で安心して生活できることが必要と考えますが、市長の二所見をお伺いいたします。

また、桜田住宅北側の鳩川橋前後の道路は地盤沈下し、その段差は一・五メートル程

は、地形の問題もあり苦慮しているところですが、危険箇所を表示など警察とも協議し、取り組んでまいりたい。

ですが、その場に遭遇した子どもみずから自分を守るための方法を身につけておくことが大切です。その方法の一つとしてCAPプログラムがあり

を体で覚えます。他市ではCAPプログラムの重要性をしっかりと学校教育の中に位置付け実施しています。学校の主体性に任せている座間市にも是非、CAPプログラムの実施を図るべきと思いますが、ご所見をお伺いいたします。

CAPプログラムを学校教育に

教育長 平成十二年度から各学校の校内研修やPTAの研修会等にCAPの講師を招いた研修を実施しましたが、CAPプログラムの活用については、各学校の安全指導面の検討がなされて位置付けられるものです。現行でご理解願います。なお、今後子どもたちが安全で健やかに成長が図られるようCAPの啓発をしてまいりたい。

市長は基地問題を抱える沖縄の宜野湾市、名護市の両市長と十一月に会談しているが、その内容と教訓は何か伺います。

協会の理事会で検討します。